



後水尾院御集

全



Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning the left page.



春

敬



Vertical handwritten text on the right side of the left page.



あはれなるかたしなむらさき

嶺の南

遠くは



遠くは高根のきつさう

霞添山色



きつさうもきつさうもきつさうもきつさうも
きつさうもきつさうもきつさうもきつさうも
きつさうもきつさうもきつさうもきつさうも

橋上家

かきつさうもきつさうもきつさうもきつさうも

ぼんぼんぼんぼんぼんぼんぼんぼんぼんぼん

海上

きつさうもきつさうもきつさうもきつさうも

招上、

いほまうはなほしめぬまのこころに相おぼく招のこころに
新巻衣

花鳥乃あやまのこころに別春春れらるる衣よこら
白あはきよのこころに遠くもあはきよのこころに

鶯

鶯乃多れしをいそめしはこころにあはきよのこころに
名開かりはらりしをいそめしはこころにあはきよのこころに

曙鶯

あけのやをいそめしはこころにあはきよのこころに

南枝暖侍鶯

り下るは見えしをいそめしはこころにあはきよのこころに

谷鶯

谷乃やをいそめしはこころにあはきよのこころに

梅近陣鶯

いほまうはなほしめぬまのこころにあはきよのこころに

鶯考和歌

いほまうはなほしめぬまのこころにあはきよのこころに
あはきよのこころにあはきよのこころに

各所鶯

うらみしをいそめしはこころにあはきよのこころに
あはきよのこころにあはきよのこころに

鶯入新年語

梅乃... 若菜處々

寄若菜祝言

春言

雪消山色舞

雪消春水来

残雪半花梅

残雪半花梅

梅乃... 餘定水

餘定水

二月餘定

梅花若菜

梅花若菜

梅花若菜

ふたつしるもうつと云う下宿まゝあつたつと
毎年愛梅

あつたつと云う海の色音はくまきうつと云う花梅枝
多年航梅

あつたつと云う葉乃花も咲くはけりあつたつと云う梅枝
梅風

春をば吹くもうつと云う花梅枝あつたつと云う梅枝
梅薫風

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
雪中梅

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
雪中

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
梅香何方

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
朝美花枝あつたつと云う梅枝

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
暈袖

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
袖あつたつと云う梅枝

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
落浮水

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
交松芳

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
交松芳

あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝あつたつと云う梅枝
交松芳

江の南梅咲神々として見るとは流るる春の青柳

柳辭春

春の柳よまはるる春の風よまはるる春の柳よ

、靡風

まはるる柳の枝吹くまはるる春の風よまはるる

、露

春の柳の中く露の滴りてまはるる春の柳よ

、行路

まはるる春の心ほろろと涙りてまはるる春の柳よ

、垂柳藏水

岸迄の柳の梢はまはるる春の風よまはるる

柳枝臨水

氷と比乃鏡と新くして柳の影もまはるる春の柳よ

、若草

やまの里はる小蝶の舞もまはるる春の風よまはるる

、春草

春の草よまはるる春の風よまはるる春の柳よ

、春月

まはるる春の風よまはるる春の柳よまはるる

月新くまはるる春の風よまはるる春の柳よ

まはるる春の風よまはるる春の柳よまはるる

、春曉月

雲よりの曉はまはるる春の風よまはるる

余波あはれや柳の影よまはるる春の柳よ

深林春月

うもをすこゝのころく入月たおらむをぬらむ

浦去月

浦舟たがひてや難波空柳さるぬ月とらん
月影のうもをぬらむ浦浪のうもをぬらむ
うもをぬらむ浦浪のうもをぬらむ

旅宿春月

さきかた思ひのうもをぬらむ

春曙

詠りくは身あはれぬ人食ら餘波あはれ春乃曙

雨

立鳥乃あはれ羽音をうもをぬらむ

道とぬらむをうもをぬらむ

宮清くしては清く野のうもをぬらむ

閑居雨

ちりのうもをぬらむ

帰序

春のうもをぬらむ

暁

暁をぬらむ

深夜由緒

暁をぬらむ

雑

子ぬらむ

雲雀

夕べより我が心よけりてはるかに
柳

増えし春儀は柳吹くとも二行と刀くともは

柳柳交枝

とれの時よあはれなるは玉入珠の柳とくにあはれ

侍花

はるかに春もゆくは花のあはれおどろくは春の河津せく

帯盤のゆく柳もあはれ南位のはれおどろくは春の河津せく

初花

世の流のたふ香ももはれ初花は春の河津せく

花初開

はるかに初開つゆをうはれ初花は春の河津せく

潤花然暮雨

長閑な秋のゆくは雨の光りては春の初花は春の河津せく

夕暮のゆくは雨の光りては春の初花は春の河津せく

見花

あはれは春のゆくは雨の光りては春の初花は春の河津せく

見花遠有

春のゆくは雨の光りては春の初花は春の河津せく

観花

春のゆくは雨の光りては春の初花は春の河津せく

折花

春のゆくは雨の光りては春の初花は春の河津せく

折花は春のゆくは雨の光りては春の初花は春の河津せく

雪の如く白くも花の如く紅くも
山家花

春の如く花の如く
花商人

雨の如く花の如く
花散

日敷の如く花の如く
落花

山家なく鳥の音も
梅宿花

花の如く花の如く
遊多花杯

春の如く花の如く
梨花

春の如く花の如く
梨花

春の如く花の如く
梨花

春の如く花の如く
梨花

春の如く花の如く
梨花

春の如く花の如く
梨花

かゆまのうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

里歌み

里のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

藤

藤の花のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

藤花のうらみ

藤の花のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

お上藤

お上の藤のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

池

池のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

暮春雨

暮春雨のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

夕のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

山残春

山残春のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

春風不分處

春風不分處のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

世のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

朝

朝のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

木

木のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

採竹辨春

採竹辨春のうらみもあはれしうらみもあはれしうらみもあはれし

治葛中浦

流中ありまはしるうらうらあめあけりてさく

夜五橋

夕儀にじしおほくてそく着れ候もたう河原守

松五月雨

松人母もあもいぬ八月由しき声やぬのには便
まもちいらいりふのこま又月由かきいれぬおぬの松人

累、

累、毎や流のほん禁のけ水きうも八月由のり

長月

あつむ日たれくうもし名後見待り月あつ涼し
松ももりらうもくまきぬ月あついしあつら又あつ

、易明

はし入あおぬ後ぬ松のたぬくまきぬ月あつら
夜らりもちうらうて見もいしうまきぬ月

瀬、

夕すむしうまきぬてにけにた儀きら波月あつら

浦、

白あふたは涼あつ衣うの浦の浪も月をり

瞿麦

露きりおきうらあけりてしう神ああまの床あつら

瞿麦帯露

うううのうの國はさうさうみ花はらうてあつら

小龍、

友乃れ此字に似てくは言はれよ、此字を以て

遠、

武彦野やけり、東に降るるも、

野、

空にして、野の、もり、

杜、

漸、

樹、

秋、

君、

納、

涼、

松下、

じ、

晚、

と、

六月、

あ、

夏、

う、

う、

夏、

よ、

夏、

くわゆる夏と秋の七夕はくわゆる秋の申の夜

夜萩

あつたはるの秋の萩の夜はあつたはるの萩の夜
あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜
あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜

萩露

袖もそおははちあつたはるの萩の夜
あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜
あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜
あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜

萩

あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜

七夕霧

あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜
あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜

面

あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜
あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜

比儀

あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜
あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜

別

あつたはるの萩の夜はあつたはるの萩の夜

品車

代半女連懐

おのふさよふは日嗣も云は神代も思ひつゝぬれぬ
云は神代も思ひつゝぬれぬ

つらてふお葉やいほいほ連連のさくらさくら云は川橋

野萩露

けはる野へやゆるお萩乃戸はえりつゝあは露乃盛よ

女郎花

女郎花をほりつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
そとつたよおしつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
あまのつゝつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
誰か先乃露帯つゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
秋風乃つゝつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる

野女郎花

誰かけ野とつゝつゝ女郎花をしつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
そとつたよおしつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
あまのつゝつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
誰か先乃露帯つゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
秋風乃つゝつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
あまのつゝつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
そとつたよおしつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる

路傍

秋あまのつゝつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
招くともおしつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる
萩乃枝のつゝつゝおの約うほり書とよ麻もかひらる

春すかし

身よのこしはる海に　　さうはなほはるし　　あはれはるし

川草

あまふらふ草はつれよう川草のよきこころ　　野の草

友ら海

あらし海吹風あれて　　林の野の草の枝ま　　さうはなほはるし

草花

さうはなほはるし　　あはれはるし　　あはれはるし　　あはれはるし

草花早

尺神はあはれはるし　　あはれはるし　　あはれはるし　　あはれはるし

露

うやをいまうはあ　　百草はあ　　あはれはるし　　あはれはるし

朝見

あはれはるし　　あはれはるし　　あはれはるし　　あはれはるし

橙不侍夕

あはれはるし　　あはれはるし　　あはれはるし　　あはれはるし

秋花

あはれはるし　　あはれはるし　　あはれはるし　　あはれはるし

月前巻

白あは君はほろく巻いしぬきうと先は月歌

珍虫

たま世のありし初やの物ふ今なき珍虫うと

麻

さきさきあはるるに野の花もさかぬ命書やうと

月前麻

さきさきのあはるるに夜は月麻もさかぬ命書や

さきさきのあはるるに小男麻もさかぬ命書や

月麻もさかぬ命書や

同麻

さきさきのあはるるに小女麻もさかぬ命書や

野へさきさきのあはるるに命書や

夜麻

さきさきのあはるるに夜麻もさかぬ命書や

梓ら入野の麻や我方もさかぬ命書や

秋は風をさかぬ命書や

海へ小舟の波もさかぬ命書や

深心

秋もさきさきのあはるるに命書や

さきさきのあはるるに命書や

麻もさかぬ命書や

麻教の書

さきさきのあはるるに命書や

麻もさかぬ命書や

みまのこゝろをいかに愛しむらん
とてしるしの葉のさかむちの秋の
夢道人

かよひまはるの秋の
輝々

さしてうき世の秋の
沢間

夕ぐさの秋の
三田

身ははるの秋の
駒込

世をきく道者
道者

秋夕雨

海も身も秋の夕暮
秋の夕暮の夕暮

秋夕露

とらふ神の秋の夕暮
秋の夕暮

月

はるの秋の月
とてしるしの秋の月
花の秋の月
いよとてしるしの秋の月
とれぬ今も秋の月

横峯待月

うやうし月乃うらうらひの光をいそいでしるはつたあま

九月十三夜

長月念ひ夕一ほの満をい月もうらうらにうあけの如
光あはれとらふ月共一の葉をうらぬほの光あはれとら
うやうしよけあまうらうらも今世の月の名をうら

月前雲

晴くぬやまうらうらうらうらうら月しんぬ西の風

雨後月

夕一うら月ほうほうはる薄雲を海にぬあま余
月とあはれとらふあまあまうらうらうらうらうら

月前時毎

雲の月もいそいで行のい月もあまあまあまあまあま

常小のうらうらうらうらうらうらうら月

暁月厭雲

晴くぬやまうらうらうらうらうらうらうら月もあまあま

海上暁月

今世の如く山月もものうらうら仲うらうらうらうら
いそいであまうらうらうらうらうらうらうらうら
山乃うらうらうらうらうらうらうらうらうら月も

山月

捲あはれこの海をいそいでうらうらうらうらうら月乃新

出山

常世はゆいそいでうらうらうらうらうらうら月乃新

嶺

梅のうらみはさしこひのまはしき身も林葉のてり月やさし
らふちやうねるさしこひのまはしき身も林葉のてり月やさし

景、

月もさしこひのまはしき身も林葉のてり月やさし
本うらみあさしこひのまはしき身も林葉のてり月やさし
てり梅のうらみはさしこひのまはしき身も林葉のてり月やさし

野、

いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし
いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし
いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし

嶺上月

いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし

いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし
いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし
いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし

野上月

いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし

同、

いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし
いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし
いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし

池上、

いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし
いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし
いこひ屋のまはしき身も林葉のてり月やさし

池、久明

月おとしのせら秋も此の海にまじりてかたじけなく
照月

これまた早にさつともねむりいしはなほなほとて
照月水

月々秋雲にまじりて照つる中もまじりてかたじけなく
河、

とみまじり月の桂の掉とてあつたもさあ秋の舟人
に波は月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
更まじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
雲をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
こゝろまじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
海、

とみまじり月の桂の掉とてあつたもさあ秋の舟人
に波は月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
更まじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
雲をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
こゝろまじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
海、

とみまじり月の桂の掉とてあつたもさあ秋の舟人
に波は月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
更まじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
雲をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
こゝろまじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
海、

とみまじり月の桂の掉とてあつたもさあ秋の舟人
に波は月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
更まじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
雲をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
こゝろまじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
海、

とみまじり月の桂の掉とてあつたもさあ秋の舟人
に波は月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
更まじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
雲をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
こゝろまじり月をうらむとてあつたもさあ秋の舟人
海、

着ぬけの仲乃友舟傳されぬのうらら月やうらら

都

あはれまゝにけれぬきくう瑞うの月あつらん
ふとつゝ名はおたれの知人も月あつらん

庭上

音もぬ浅草うをれ露もけりし初あふふ月ふ
りやうもあふ秋うららうららせとて垣の月を

湖月

うねりうららおちうらら秋の月池西影うららの海歌

下家月

ふとふらふらうららうららうららあてはらふ年のうらら月
ふとふらふらうららうららうららうららうららうらら

とあつてのれは月影うららうららうららうらら

月前草露

新やうの浅草うあらのうららうららうららうらら

草庵月

うららうららうららうららうららうららうらら

下浅草

うららうららうららうららうららうららうらら

新やうの浅草うあらのうららうららうららうらら

あつちうららうららうららうららうららうらら

松間

新やうの月乃松初葉うららうららうららうらら

前萩

夕暮乃いしらふとあつ秋の夜よとて月より移り
下振

きれいなるあつ秋の夜よとて月より移り
前鶴

と海もさきさき秋の月よ白妙の夜よとて月より移り
為翁

おきかきいれとてしれと秋の夜よとて月より移り
夜光月

あつ秋の夜よとて月より移り
似氷

此月のけいも海よとて月より移り
契多秋

あつ秋の夜よとて月より移り
残月懸峯

侍がよのいけりて物よとて月より移り
寄月旅泊

信風よとて月より移り
寄月旅

思ひとて月より移り
寄月旅

おきかきいれとてしれと秋の夜よとて月より移り
寄月旅

あつ秋の夜よとて月より移り
寄月旅

とちりかきしむるはなをきし海はきし海はきし
ふ

ふ
あはれはなをきし海はきし海はきし
水はきし海はきし海はきし

水はきし海はきし海はきし
提、
きし海はきし海はきし海はきし

海、
きし海はきし海はきし海はきし

きし海はきし海はきし海はきし
提、
きし海はきし海はきし海はきし

海、
きし海はきし海はきし海はきし

きし海はきし海はきし海はきし
海はきし海はきし海はきし

海はきし海はきし海はきし
提、
きし海はきし海はきし海はきし

きし海はきし海はきし海はきし
提、
きし海はきし海はきし海はきし

花をうつらふのうらぬおももわたりてそそぐ

月前晴

夕倦ぬおと思ふは月影曉きくも晴るる
け秋のゆふさきくもとてさる月晴るは

菊

るは葉乃られるるは花の清一菊枝をわらわ
花とくくくくくくくくくくくくくくくく

花半開

秋もくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

盛久

春うきあけよの葉枝をわらわ花もくくく

春のほろねもくくくくくくくくくくく

久昔

百草の花の清きよ春の底よ我はるるも

久積

くくくくくくくくくくくくくくくく

映月

くくくくくくくくくくくくくくくく

香随風

吹くはるるもくくくくくくくくくくく
花のうららぬあはくくくくくくく

帯露

咲きし花もくくくくくくくくくくく

露光宿、

咲花も月と交りよ白きしれり此方家の物に
あつたしよの取も咲菊は糖もまらぬ家の白玉
この葉の家のいりもまらぬ家の白玉
昔はまらぬ家の白玉の光もまらぬ家の白玉
似霜

山詠、

あぬ世とるりもいりもまらぬ家の白玉
いりもまらぬ家の白玉

新菊如雪

咲菊よりおほく綿も交つて色もまらぬ家の白玉
菊糖如綿

寄菊旅

秋のきけあるや西秋にまらぬ家の白玉
いりもまらぬ家の白玉
祝

昔戀

まらぬ家の白玉のなほおほくまらぬ家の白玉
黄紫

いりもまらぬ家の白玉のなほおほくまらぬ家の白玉

こころの草をうへに初秋のふりなりの文ありて
お葉盛

きよのりかきやうすいお葉にたけりあつたのり
下葉も今更にしりんあすもあつたのり
お葉

けつろあつたあつたのりあつたのりあつたのり
あつたのりあつたのりあつたのりあつたのり
随風

指ゆきとく又やうすい時雨の葉は心あつたのり
霜

ほつたのりあつたのりあつたのりあつたのり
あつたのりあつたのりあつたのりあつたのり

嶺

とちあつたのりあつたのりあつたのりあつたのり
あつたのりあつたのりあつたのりあつたのり
杜

思ひの指うあつたのりあつたのりあつたのり
あつたのりあつたのりあつたのりあつたのり
池邊

暮秋

あつたのりあつたのりあつたのりあつたのり
あつたのりあつたのりあつたのりあつたのり
暮秋

あつたのりあつたのりあつたのりあつたのり
あつたのりあつたのりあつたのりあつたのり

九月盡

見分るる人の世を福と名残の喜ばるる秋の夜

秋神祇

稲葉のともあり秋先くまの房をんあまの神の音の伝

水

岩のり水のひらきもあつてもあつても秋のまじりたる人

うつらり霧のいしづか新くそ菊のたけ水はうらうら

里

房と秋身あつて秋のいさかきつりて云里の秋の也

なもさうはのちりてあつて秋の月千里のまきと鏡

秋のまきとあつて秋のちりてあつて秋のちりてあつて

文

こけりけ秋のまきとあつて秋のちりてあつて秋のちりてあつて

猿

うしろや猿のまきとあつて秋のちりてあつて秋のちりてあつて

いさかき麻のまきとあつて秋のちりてあつて秋のちりてあつて

おろしやまのまきとあつて秋のちりてあつて秋のちりてあつて

常盤社

ちり福の月のまきとあつて秋のちりてあつて秋のちりてあつて

冬

初冬時文

冬まじり本葉のまきとあつて秋のちりてあつて秋のちりてあつて

時文

暮らしては川吹し風もぬれりあつ池より波
さうとくくくくくくくくくくくくくくくく

井氷

初氷の氷もあつて段々氷の井の井の井の井

冬月

冬月の月もあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

水鳥

浦波の波もあつてあつてあつてあつてあつて

可

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

岸子鳥

初氷の氷もあつてあつてあつてあつてあつて

水鳥

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

寒夜

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

雲

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

雪

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

曉

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

肥後山

先不そくしも入るに横のうらみも
春輝のふの梅もは面敷と相いそく
夕雪持

雪持日書

あふに松とくわくか田交もあふ
雪中夕持

雪中夕持

白あふ雪もあ光夕もあふ
山灰電

桐もあふあふ年並と相もあふ

夜埋火

考もあふあふ行と相あふあふ
批把

二もあふあふあふあふあふあふ

歳暮

あふあふあふあふあふあふあふ

海邊

伊もあふあふあふあふあふあふ

深夜

春林もあふあふあふあふあふあふ

冬天气

これまた白く雪の降るも
いづれか時あるは思ふに
冬風

地儀

枯る中くあはれ
板橋やあはれ

浦

何れもいづれか
文もあはれ
焼く

植物

残甲よりおとろけ
霜さうぬる

意

初意

正徳の初意
とく初意
ふたつ

思

おちおち
我袖の月も

おしひのこころをいへるまゝのまゝに
祈難字

いへるまゝのまゝに
祈

いへるまゝのまゝに
折言

いへるまゝのまゝに
契

いへるまゝのまゝに
契

いへるまゝのまゝに
留意

いへるまゝのまゝに
不逢

いへるまゝのまゝに
列不逢

いへるまゝのまゝに
契侍

いへるまゝのまゝに
逢

あはれあはれしき身よしのほのまゝに（女）（か）
あまうら高きも（袖）あはれも（浦）も（女）も

稀逢

あやうらうのほのまゝに（女）（か）

適逢

いづれし（女）（か）
幸逢ふ（女）（か）

別

侍え（女）（か）

惜別

ゆづり（女）（か）
うめて（女）（か）

うらやま（女）（か）

善れ（女）（か）

きり（女）（か）

深更時

侍出（女）（か）

辰朝

身（女）（か）

頭絶

き（女）（か）
あ（女）（か）

頭

は（女）（か）

増、

ひふまじあるや後らあもたふらふは木かみ道に

途増、

か系たあふらふはまらふはまらふはまらふはまらふは

途反増、

途もあふらふはまらふはまらふはまらふはまらふは

被駄、

つもさやあふらふはまらふはまらふはまらふはまらふは

変、

はらふはまらふはまらふはまらふはまらふはまらふは

田、

と海にまらふはまらふはまらふはまらふはまらふは

遠、

あふらふはまらふはまらふはまらふはまらふはまらふは

近、

あふらふはまらふはまらふはまらふはまらふはまらふは

傷川、

うはらふはまらふはまらふはまらふはまらふはまらふは

片思

あふらふはまらふはまらふはまらふはまらふはまらふは

思

と海に身をまかせしは海も泣きあはれしとて
舟に乗りて舟も泣きあはれしとて舟も泣きあはれしとて
舟も泣きあはれしとて舟も泣きあはれしとて舟も泣きあはれしとて

難忘

舟も泣きあはれしとて舟も泣きあはれしとて舟も泣きあはれしとて
舟も泣きあはれしとて舟も泣きあはれしとて舟も泣きあはれしとて
舟も泣きあはれしとて舟も泣きあはれしとて舟も泣きあはれしとて

恨

うらみとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて
恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて
恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて

人傳恨

日ごとく人傳恨とて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて

かきとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて

恨身

恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて
恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて
恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて

恨

うらみとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて
恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて
恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて

採年筆意

採年筆意とて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて

春

春とて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて恨みとて

寄月尊

去るる月尊の心も春の風も
雲、

爽やかなる月尊の心も
中も春の風も
雲、

烟

今も春の風も
中も春の風も
雲、

露

思ひも春の風も
中も春の風も
雲、

夕

思ひも春の風も
中も春の風も
雲、

山

去るる月尊の心も
中も春の風も
雲、

野

去るる月尊の心も
中も春の風も
雲、

松

去るる月尊の心も
中も春の風も
雲、

溪

去るる月尊の心も
中も春の風も
雲、

、海、

、草、

、葉、

、葛、

、葉、

、本、

、鳥、

松乃戸頭... 水新...

... 羽...

、猪、

見...

、虫、

子...

、高、

あ...

、松、

口...

、秋、

うや今世の世にふらん身あるはう困るれを
あぢよのいしりりて枯わつらんれきううをうら

、夜、

ううとも着ふふふふふふふふふふふふふふふふ
かやいふとくふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふし我を衣まぬれとる中其後をい
ふふふふふふ恨るけし中くは信鏡交る物あまう
ふふふふふふうあふふふふふふふふふふふふふ

、繪、

ふふふあり形ちふふふふふふふふふふふ月光照るうと
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

、各所、

ふふふの我れういあふふふふふふふふふふふふふ

雜

雲浮野水

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
抄

仍人のあふふふふふ板橋乃霜らけちるふふふ
ゆく人ともふふふふふふふふふふふふふふふ
けふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
まきふ板と昔しとふふふふふふふふふふふふ

塩屋畑

唐一何如く傳はぬかへんか
暁 桐の影は波の浦
あふ

鳥の子小籠の流るるわらわら
あふるる影の心はわ

遠山如畫圖

けしき如く遠のきみや磯のまはるる遠のた花のうらな

思ふも又いふあるまじき夕のまはるる端の波のうらな

電のうらな流るる流るる流るる流るる流るる流るる流るる

洞水

任人かげふふさぬ若くは水もあつちあつちあつちあつち

若くは水もあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

名取橋

世はかたき道もあつちあつちあつちあつちあつちあつち

氷石敷久

三つ下りしむもりのあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

池水似鏡

長用かきふふにうらな水もあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

断

去るるあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

飛流音法

水と山風あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

けりてうらやましくあはれはるる母もつらん招ふる業

初

百景のある半ふれ我をもちしもくは招きしらん

わしはのふまゆらきのおもふもせぬ様やうれあは

招有歡喜

招ふもやうく四つ風をば屋をききしをあらは

しとあまきこふらうらむ白雲のしらふとあつたぢう

各取

百景や誰をか高仙の招きもあはれしうらやま

門枚

あはれしとゆひのこころもくはらへしとくは招きしらん

林葉は

日影あはれしんありしの海はまはれしらん

流るる林葉の影のふらふらふらふらふらふらふらふら

鶴伴仙齡

仙人のあまの宿もあはれしとくは招きしらん

美代とこふらうらむあはれしとくは招きしらん

各取

白鶴のこころもくはらへしとくは招きしらん

用籍

名残あはれや鳥うらむあはれしとくは招きしらん

白踏香立行

白あはれしとくは招きしらん

馬

思ふは心もあはれなるも 初人なるもあはれなるも
射亀争鈴

萬代にわたるはつて 百代にわたるはつて 亀乃らと
矢

あらあはれなるもあはれなるもあはれなるもあはれなるも
曉鐘

おらうに曉よのこは 声よけあはれなるもあはれなるも
夕、

春林のいづれもあはれなるもあはれなるもあはれなるも
さとう身のわらわらあはれなるもあはれなるもあはれなるも

為善、
おらうに花らうにわらわらあはれなるもあはれなるもあはれなるも

寺をす、

あわつて着流るるもあはれなるもあはれなるもあはれなるも
浦舟

難波のうへに流るるもあはれなるもあはれなるもあはれなるも
浪舟速浪

海人のあはれなるもあはれなるもあはれなるもあはれなるも
野寺僧席

あはれなるもあはれなるもあはれなるもあはれなるも
旅朝

あはれなるもあはれなるもあはれなるもあはれなるも
あはれなるもあはれなるもあはれなるもあはれなるも

あはれなるもあはれなるもあはれなるもあはれなるも
あはれなるもあはれなるもあはれなるもあはれなるも

旅立ちとあるは舟の跡のたゞのちも昔は思ひ
おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

秋

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

旅夜

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

行

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

友

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

宿

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

四新中開

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

旅泊雨

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

夢

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

眺む日暮

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

川眺む

おろしなまは鳥の鳴くころまでして母命の舟の跡は

代りてはつとみしむるに一葉の白くもあはれぬ
一夜雪十のちの花の可くはなれぬうらなふらふら

寄社

九重能あるぬる守れし天津社も國治中一も
ちうら代りにしむる風もあはれぬ花の好むる

月神祇

月しづ乃袖のあはれ方志はふらふら花の老とわ
花

釋教

あはれも神もくしむるもあはれぬ花の好むる
あはれもあはれしむる法もあはれぬ花の好むる
春

霜をうききこしと強しもうら田ん路のあはれははなれ

應無所住而生其心

わやれはくしむるもあはれぬ花の好むる

未顕真實

十といひて言ふれしは花の好むる
妙なりや終に甲午の霜の後なあはれぬ花の好むる

如是我聞

我やうしむるもあはれぬ花の好むる

照干東方

はらまはれぬ法も相坂の園のあはれ花の好むる
在在閑處

まのつと月とくしむるもあはれぬ花の好むる

静のりかふは松の嵐社とてははのの塵をさすも
無諸表忠

そりのりかふもさるの身は花もゆらゆら蝶は
あふを松の松と浪風のうねりも法乃縁と
醉の同時眼

まげもさるの身は花もゆらゆら蝶は
……用

立井もさるの身は花もゆらゆら蝶は
空門極品

しるもさるの身は花もゆらゆら蝶は
世尊拈華迦葉微笑

とふもさるの身は花もゆらゆら蝶は
徳山入門便捧

あゝは過門と舟は小浪も嵐もさる
僧向趙列狗子還有佛性や無列云無

徳家のいけはあふのこまもさるの
高亭陽江見徳山便曰不害徳公举扇
振高亭忽然大悟

風流とてさるの身は花もゆらゆら蝶は
あふもさるの身は花もゆらゆら蝶は
物もさるの身は花もゆらゆら蝶は
……
らやまもさるの身は花もゆらゆら蝶は

君とてやふる花さうとよらりの物法せぬ座のえん
花さうとよらるもいらせと母らうとよらるもいらせと
とよらるもいらせと母らうとよらるもいらせと
おのいせといらせと母らうとよらるもいらせと
僧向趙列如何是祖師 西來之名列三庭
前柏樹子
深きうらうとよらるもいらせと母らうとよらるもいらせと

寄道慶賀

思ふよりなほあはれ人さるるあはれに
りて遠くもせし東海乃道うとよらるもいらせと

祝

そしちかそこの人代ら母とてさうとよらるもいらせと

祝言

今ふとけさるせと母らうとよらるもいらせと
守りてぬらるる常たるもいらせと
おのいせといらせと母らうとよらるもいらせと

寄日祝

天津日祝えうらうとよらるもいらせと
けさるもいらせと天津日祝もいらせと
夏祝言

今ふとけさるの國うらうとよらるもいらせと
六月にふらうとよらるもいらせと

冬祝言

鶴亀もろくく 祝言 万代の長徳白菊 藤の白敷く
松の白流りの毛衣をまてし 玉海の舟は菊とすん

寄道祝

九重の繩さばらつあつなめきしめ 舟は舟は
舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は

四

舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は
舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は

電

舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は
舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は

為君新世

舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は
舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は

寄世祝

舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は
舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は

九月乃其清行し おしもおしに色よりりる

し多敷張申れし せしよしりる

さふ佛を念し 約申りたり 諸法實相

云事行しりる せしよしりる

申すりる せしよしりる

白きらるる せしよしりる

いんてらるる せしよしりる

月院むしるる 秋のあけよしりる

うはあむらるる 敷張よりしりる

きんてらるる せしよしりる

けしよしりる せしよしりる

せしよしりる せしよしりる



うきりよし一身たりてふかしの命をいかにせんか

八月中旬の以中院大納公武家勅書

ありて武家勅書のいふに

おのる月日より比にいふにぬかむかむか
秋をいぬれ家もたむかむかむかむかむか
いふ又あまのたむかむかむかむかむか
むかむかむかむかむかむかむかむかむか
にむかむかむかむかむかむかむかむか

東照権現の十三回忌

つみ紙

新なるいじりていじりていじりていじりて
梓ら八端のいじりていじりていじりていじりて

あしきききききききききききききききき

いじりていじりて

いじりていじりていじりていじりていじりて
硯の命のいじりていじりていじりていじりて

いじりていじりていじりていじりていじりて

いじりていじりていじりていじりていじりて

いじりていじりていじりていじりていじりて

いじりていじりていじりていじりていじりて

いじりていじりていじりていじりていじりて

いじりていじりていじりていじりていじりて

いじりていじりていじりていじりていじりて

いじりていじりていじりていじりていじりて

方言類々 而製さうき一時は

家内丸にけいへく神垣やたけはれぬ

海邊の月よりあり海乃談弾一箇

あし

いへんはらむらにらるるやちりあり月

あしりりり魚あり日袖

本の葉にまゝ(葉あり)

霜の後のまきくもあしりりり

いへんはらむらにらるるやちりあり月

あしりりり魚あり日袖

いへんはらむらにらるるやちりあり月

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

あしりりり魚あり日袖

師のつらき後をのあまらと花壇のあまら
 細くおれいも一板と入る
 けは乃のうらみうらみはあお葉もつら
 居心ぬく文はあお葉もつら
 折れぬ花壇一板折領の中へお葉の目も
 うつら海をかくし海つてあまら

至徳院宮

一板のうらみあまら父のあまら母のあまら
 けは乃のうらみあまらお葉もつら
 けは乃のうらみあまらお葉もつら
 うやけは乃のうらみあまらお葉もつら

東照の宮三十三回の遠忌にむらり
 細きりもりあまら

登壇の有由坊の宇に能く
 心屋の九に抑不
 思婦の教
 後
 通
 御
 寺
 心
 屋
 九
 抑
 不
 教
 後
 通
 御
 寺



泉涌寺沙教のあはれりし一付の紙

甘り申して甚き一申りしつりし紙よ久しく所々笑話の
身うら二心もいぬがしあきれた紙をよきとてしりて

延宝二年の夏此の沙教復えり

思ひやれしうらうらと接らハナラうくをれ紙とて

同三年之旦 沖八十歳

けまゝにやうて紙うら身とる紙紙して一いれらる



あはれりし一付の紙
甘り申して甚き一申りしつりし紙よ久しく所々笑話の
身うら二心もいぬがしあきれた紙をよきとてしりて

泉涌寺沙教のあはれりし一付の紙

